



奈良県自閉症協会 NEWS

きずな

The Kizuna

No. 317

2025
Jan.

1

<https://www.eonet.ne.jp/~asn/>

発行人:

関西障害者定期刊行物協会

編集人: 奈良県自閉症協会

支部長&事務局: 河村舟二

〒639-1005

大和郡山市矢田山町 84-10

購読料1部 100円

会員は会費に含まれています。



一九九六年五月一日第三種郵便物承認 毎月(1・2・3・4・5・6・7・8の日)発行

一般 社団法人日本自閉症協会では、2年毎に全国大会を実施しています。今回は第28回で、2025年2月8日と9日に神奈川県で行われます。

テーマは『英国から学ぶこと・今、私たちにできること～NASが実現した「生きやすい」社会～』で、英国自閉症協会(NAS)の最高経営責任者キャロライン・スティーブンスさんを講師に招きます。大会プログラムの中で、2日目午後インクルーシブ教育についての日英対談が予定されています。英国の状況を理解するためにも、今一度我が国の状況を整理しておきたいと思えます。

2022年8月に行われた国連障害者権利委員会による取り組み審査により、日本の特別支援教育について、通常教育に加われない障害児がおり“分離教育”が長く続いていると懸念を表明。日本政府は、分離教育の中止に向け、障害のある子どもない子ども共に学ぶ「インクルーシブ教育」に関する国の行動計画を作るよう求められました。これに対し文部科学省は、「特別支援と普通の学校の選択は、本人と保護者の意思を最大限尊重している」と説明し、「特別支援教育は中止せず、インクルーシブ教育を進める」としています。日本の障害児教育システムは、世界的に見ても独自の特徴を持っていま

す。すなわち、多様な学びの場：日本では、特別支援学校、特別支援学級、通級による指導、通常の学級など、障害のある子どもたちに対して多様な学びの場が提供されています。合理的配慮：障害のある子どもたちが他の子どもたちと共に学ぶために、学校が必要な変更や調整を行う「合理的配慮」が求められています。インクルーシブ教育：日本では、障害のある子どもたちが通常の学級で学ぶことを推奨するインクルーシブ教育が進められています。これにより、共生社会の実現を目指しています。

日本の障害児教育における「多様な学びの場」の提供は、インクルーシブ教育の理念に基づいていますが、現実には別学や隔離教育が行われていることが問題視されています。国連からの指摘は、以下のような理由によるものです。

インクルーシブ教育の不徹底：インクルーシブ教育の理念は、すべての子どもが同じ教室で学ぶことを目指していますが、日本ではまだ別学や特別支援学校が多く存在し、障害児が一般の学校に通う機会が限られています。

教育環境の整備不足：障害児が一般の学校で学ぶためには、バリアフリーの環境や専門的な支援が必要ですが、これらの整備が十分ではない

ため、結果的に別学や隔離教育が行われています。

教員の専門性不足：インクルーシブ教育を実現するためには、教員が障害児に対する専門的な知識やスキルを持つことが重要ですが、現状ではそのような教員が不足しているため、障害児が適切な教育を受けられない場合があります。

これらの課題を解決するためには、インクルーシブ教育の理念を徹底し、教育環境の整備や教員の専門性向上を図ることが必要です。

インクルーシブ教育が重要である理由は以下の通りです：

1. 社会的な包摂：インクルーシブ教育は、障害の有無にかかわらず、すべての子どもが共に学び、共に成長する機会を提供します。これにより、障害児と健常児の間に相互理解と共生の意識が育まれます。
2. 偏見や差別の軽減：障害児が一般の教室で学ぶことで、健常児が障害について理解し、偏見や差別が減少することが期待されます。これにより、将来的により包摂的な社会が築かれるでしょう。
3. 個別の支援：インクルーシブ教育では、個々のニーズに応じた支援が提供されることが重要です。特別な支援が必要な場合でも、適切なサポートを受けることで、学びの場でのストレスを軽減し、より良い学習

環境を提供することが可能です。

4. 社会参加の準備：インクルーシブ教育は、障害児が将来の社会で自立し、積極的に参加するための基盤を築くことを目指しています。共に学ぶことで、社会でのコミュニケーションや協力のスキルが養われます。

もちろん、インクルーシブ教育がすべての子どもにとって最適な解決策であるとは限りません。お子さんの特性やニーズに応じた柔軟な対応が必要です。専門家と相談しながら、最適な教育環境を見つけることが大切です。

(河村)



— 一般

第28回日本自閉症協会全国大会ALLかながわ大会

英国から学ぶこと・今、私たちにできること

～NASが実現した「生きやすい」社会～

お待たせしました！いよいよ英国自閉症協会（NAS）のキャロライン・スティーブンス氏が来日します。「自閉症者のために機能する社会」を掲げ、世界的に注目されるNASの自閉症支援。「ムーンショット・ビジョン」を始めとするNASの様々な取り組みを、最高経営責任者（CEO）であるスティーブンス氏にお話しいただきます。また、内山登紀夫先生、本田秀夫先生には、今もっともタイムリーなタイトルでご講演いただき、最後に、「自閉症（個別）教育とインクルーシブ教育」について、スティーブンス氏と共に、日英それぞれのお立場から語っていただきます。皆様、ALLかながわの全国大会に、どうぞご期待ください！



英国自閉症協会（NAS）

・1962年に設立したイギリス国内最大の自閉症支援団体。自閉症研究、支援の実践、権利擁護などで世界をリードしている。学校（4校）や施設の運営、教員や専門職のトレーニング、通常学校における先駆的センターの運営、調査研究活動、権利擁護活動を展開し、政府に対して働きかけを活発に行っており、政策に影響を与えてきた。

・現在職員は約2,500人。2022-23会計年度の収入は約188億円

出典：NAS Annual report2022-23

2025年 2月8日（土）

12：00～17：30（受付11：00～）

2月9日（日）

9：30～16：00（受付 9：15～）

鎌倉芸術館 大ホール

場 所：鎌倉芸術館（裏面地図参照）
神奈川県鎌倉市大船6-1-2
（JR大船駅より徒歩10分）

定 員：1,500名

参加費：2日間 7,000円＋システム利用料330円
1日参加 4,000円＋システム利用料330円

申 込：Webチケットサービス
（チケットベイ）

右のQRコードより、お申し込みください



<https://x.gd/2hL3X>

申し込み期間
2024年11月1日（金）～ 2025年1月31日（金）まで

購入方法問合せ：カスタマーセンター
TEL 0570-000-555

【講師】

キャロライン・スティーブンス氏



- ・英国自閉症協会（NAS）最高経営責任者
- ・国民保健サービス（NHS）理事
- ・薬剤師 重度自閉症の息子を持つ母

内山登紀夫氏



- ・福島学院大学 副学長
- ・よこはま発達グループ CEO
- ・日本自閉症協会 副会長



本田秀夫氏



- ・信州大学医学部
子どものこころの発達医学教室 教授
- ・日本自閉症協会 理事



上記 QR コードより、先生方からの全国大会
に対する動画メッセージをご覧いただけます。

*2日間の日程、問い合わせ等、詳細は裏面をご参照下さい

**全国特別支援教育振興協議会
参加報告**

(2024.12.6 9:45～16:00)

国立オリンピック記念青少年総合センターにて)

1. 特別支援教育の充実について
(文部科学省)

(1) 障害者権利条約のインクルーシブ教育について

「一般的な教育制度から排除されない」ということを求めている。各国の教育行政により提供される公的教育（特別支援学校含む）には違いがあり、特別支援教育（障害のある子ども全体に占める特別な学校の在籍率）は次の3つのグループに分けられると考える。また、日本は障害による就学猶予、免除者は諸外国に比べ非常に少ない。

- ・通常学級措置群
(イタリア、ノルウェーなど)

- ・通常学級・分離教育措置並立群
(日本、フランス、韓国など)
 - ・分離教育措置完結群
(ドイツ、スウェーデンなど)
- (2) 特別支援教育を担当した経験のない先生が7割。これを上げていく。
(3) 現在の健診は 1.5 歳、3 歳、就学児であり、3歳から就学児の間が長い。5歳児健診をいれて、特性のある児童について早い段階から対応できるようにする。(新規事業)
(4) 通常の学級に在籍する児童に対する個別の指導計画の策定は、都道府県により大きな差がある。対象児がいらないとの報告をしてきた県もある。
- 2, 子ども政策全体の中での障害児施策について(こども家庭庁)※記載省略
3. シンポジウム(ライフステージ移行期における支援の連続性の実現をめざして)
- <発表>

- (1) 全国肢体不自由児者父母の会連合会
学校で行ってきた合理的配慮などの個別支援を卒業後に引き継いでいくことが大切。
(2) NPO法人全国LD親の会
個別の教育支援計画を作ることが子どもの自己理解のためにも大切。
(3) リゾートトラスト(株)
障害者雇用率は 2.91%。知的障害のある人もいろいろな仕事ができる。
(4) 全国特別支援学級・通級指導教室設置学校長協会
本人、保護者に高等学校普通科、大学進学のためレッテルを貼られたくないなどの思いも。
(5) 全国特別支援学校長会
個別の指導計画。連続した支援で就労につなげる。
- <発表の要点として感じたこと>
- (1) 学校で行ってきた合理的な配慮

などの個別の教育支援計画が有効である。幼時から、小、中と継ぐことで卒業後にもつながる。なお、これできていないことがあり問題。

(2) 個別の教育支援計画が自己理解につながるという効果もある。

(3) 知的障害のある人も雇用し、障害者雇用率 2.91%を実現している。

(株リゾートトラスト)

(4) 特別支援学級では高等学校や大学進学のためレッテルを貼られたくないとのことで個別の教育支援計画を作成することができないケースがある。

(5) 特別支援学校では個別の教育支援計画、実習で就労につなげている。

<質問・意見(津田)>

Q) リゾートトラストさんは多くの障害者就労を実現されているが、在学中から実習などを行い、就労を成功させていると考えてよいか。

A) 早い段階から実習を行い、就労

につなげている。(特別支援学校で行っている実習の成果。学校の中の個別の支援計画だけではなく、卒業後の仕事について支援を受けながら経験をしていることが就労につながっている)

文責(津田)



昨年末に公表された「中井やまゆり園元利用者の死亡事案に係る検証チーム中間報告書」に関する意見について下記 HP に掲載しておりますので、お知らせいたします。

※今回のような悲惨な事件を二度と起こさないために、私たちは検証委員会の検討に強い 関心を持ち、参考にしていきたいと思っています。

<https://www.autism.or.jp/wp-content/uploads/2025/01/chukanhoukoku250114.pdf>

※中井やまゆり園元利用者の死亡事案に係る検証チーム中間報告書は下記よりご覧いただけます。

https://www.pref.kanagawa.jp/documents/116023/chukan_houkokusho.pdf

（以上一般社団法人 日本自閉症協会のメールより）

「中井やまゆり園元利用者の死亡事案に係る検証チーム中間報告書」

に関する意見

について下記 HP に掲載しておりますので、お知らせいたします。

※今回のような悲惨な事件を二度と起こさないために、私たちは検証委員会の検討に強い 関心を持ち、参考にしていきたいと思っています。

<https://www.autism.or.jp/wp-content/uploads/2025/01/chukanhoukoku250114.pdf>

※中井やまゆり園元利用者の死亡事案に係る検証チーム中間報告書は下記よりご覧いただけます。

https://www.pref.kanagawa.jp/documents/116023/chukan_houkokusho.pdf（以上一般社団法人 日本自閉症協会のメールより）

昨年末に公表された

「中井やまゆり園元利用者の死亡事案に係る検証チーム中間報告書」を

読んで

2025年1月14日日本自閉症協会
政策担当 中井 忠（副会長）

1. いきさつ

この死亡事案とは、各種報道によれば、昨年（2024年）7月、転居先の千葉県長生村の自宅で重い知的障害のある44歳の次男を殺害したとして78歳の父親が起訴された事件です。

死亡した次男は神奈川県立中井やまゆり園（以下、園）の短期利用を5月30日に終了し、家族は6月上旬に神奈川県から千葉県長生村に転居し、その翌月に事件が起きました。中間報告書によれば、死亡した本人は小さい時から神奈川県内でいくつかの福祉サービスを受けており、19歳の時には園を一時利用し、25歳では園に入所したが、翌年に家族の希望で退園となったものの、その後

も短期での利用がされてきました。事件の翌月の8月には検証チームが発足し、12月10日に表記中間報告書が公表されました。

2. 中間報告書について

① 事件後ただちに関係者を中心とした検証チームを立ち上げ検討を進めてこられたこと、また、ご家族の承認のもと、報告書を公表されたことは極めて重要だと考えます。

② 本人の小さい時からの経過、とくに成人以降の経過を詳細に記述されていることは参考にする際の原点になるものであり、勝手な憶測に陥らないためにも重要だと考えます。

③ 家族と本人が記述されているような状態にあるときには、「本人への直接支援」と「家族への支援」の両方が必須です。その前提で、最終報告書をまとめていただくにあたって本人への直接支援に関して、以下の点をさらに掘り下げていただきたいと思っています。

a. 本人は強度行動障害の状態にあったと推測しますが、眠ってくれない、放尿する、放便する、裸になるなどの状態が継続すると、親子共倒れになります。なかでも「眠ってくれない」が続くと深刻です。このような場合一般的には、複数のスタッフが交代で支援できる施設入所利用が選択されると考えます。ただし、今回のような困難ケースに対する支援実力があることと、本人用の物理的環境と個別プログラムを用意できることが前提になります。また、私たちの経験では、多くの場合状態改善には数年を要しています。「6. 今後の対応」にあるように、施設入所に成功しなかったわけを掘り下げてほしい。

b. 施設入所が本人に適さない場合には、24時間の訪問介護（家族との同居を前提としない）が選択肢になると考えますが、その選択肢を検討してほしい。

c. 今回のような状態に対する支援

資源が県内にあったのか、なかったのかを検討してほしい。	今回のような悲惨な事件を二度と起こさないために、私たちは検証委員会の検討に強い関心を持ち、参考にしていきたくと思っています。	以上中間報告書： https://www.pref.kanagawa.jp/documents/116023/chukan_houkokusho.pdf
-----------------------------	--	--

JD（日本障害者協議会）ニューイヤー交流会 参加報告

昨日（1/14）東京の外山サンライズにおいて JD ニューイヤー交流会が開催され、参加しました。

以下、簡単にご報告いたします。

■参加団体リレートーク

参加団体それぞれの紹介と簡単な挨拶が行われました。

私は、次のような発言をしました。（2分弱。細かな部分は正確ではなく、およその内容です）
○障害はさまざまで、必要とする合理的配慮は、それぞれ違っていますが、そのような団体が一緒に集まり活動するJDの取り組みはとても大切なことであると思います。

○自閉スペクトラム症はコミュニケーション、社会性、興味の偏りなどの困難さがあり、外見ではどのようなことに困っているのか、どのようなことが辛いのがわかりにくいため、周囲の人に理解されにくく、必要な配慮や支援が受けられにくい障害です。

○障害とはいいいませんが、例えば、私には「そばアレルギー」があります。外見ではわかりません。昔はこのアレルギーについてあまり知られていませんでしたので、食べず嫌いだろうと思われることがよくあり、知らんぷりをして、そばの入ったお菓子をいただいたことがあります。すぐに具合が悪くなってしまいました。気づかずに食べて救急車で運ばれ死にかけたこともあります。わからないということは怖いことです。自分とは違う人がいる、一人ひとりに応じた配慮が必要であるということの理解を広めることが大切であると思っています。

○また、インクルーシブ教育が大切であり、みんな一緒に学ぶべきであるとの声があり、そのようなことを言われる方の気持ちはわかりますが、自閉スペクトラム症の特性を持つ人の中には、みんなと一緒に活動を

することが、とても辛いという人もいます。私の子どもは他の人に合わせて一緒に活動することは辛いことが多く、泣いたり、頭を壁にぶつけてしまうなどパニックになってしまうことがあります。大声で泣いたり、暴れたりすることで、辛い状態である事に気付いてもらえ、対応してもらえるとということが強度行動障害になってしまったことにつながっている面があると感じています。

○障害のある人が求めることはそれぞれ違いがあり、そのことが理解されて、それぞれが必要な配慮や支援が受けられる社会であってほしいと思います。

○当協会は多くのみなさまに理解をしていただきたいと考えて活動をしており、2月8日～9日には鎌倉で全国大会を開催し、英国からも講師をお招きしています。チラシを配布させていただきましたので、よろしければご参加ください。

■交流

いろいろな方と名刺交換を行い、簡単な話をすることができました。

○JD副代表の菌部さんからは、教育については国により違うということがわかってきたと私の話に理解を示す話をさせていただきました。

○JDの総会で、関連した発言をさせていただいた際に知り合いになった法政大学の佐野竜平先生からも声をかけていただきました。

○全国知的障害者施設家族連合会の方が当協会と交流したいと話かけてくれました。

○きょうされん 斎藤理事長、NHK 足立記者、社民党 福島参議院議員、全国手話通訳問題研究会、全国要約筆記問題研究会、鉄道弘済会 など以上

（静岡県自閉症協会 津田明雄）

日本自閉症協会のメールを通じて、理事の津田さんから下記情報をいただきました。（河村）

特総研からのお知らせ

●令和6年度国立特別支援教育総合研究所セミナーの開催について
本年度の研究所セミナーは、「共生社会の形成に向けた特別支援教育の展開」をテーマに、国立オリンピック記念青少年総合センターにて、開催いたします。プログラムの一部を除き YouTube ライブ配信もいたします。

日時：令和7年3月8日（土） 9時30分～16時15分

定員：会場 500名（先着申込順）

YouTube ライブ配信は定員なし

※ YouTube ライブ配信をご希望の方もお申し込みが必要です。

申込期間（予定）：令和7年1月14日（火）～2月14日（金）

○令和6年度国立特別支援教育総合研究所セミナーの詳細はこちら→

https://www.nise.go.jp/nc/training_seminar/special_seminar/r6



世界自閉症啓発デーについて

各地の自閉症協会のみなさま毎年お世話になっております！

今年も4月2日世界自閉症啓発デーに向けて動き出しました。5回目となる YouTube ライブ生配信を計画しております。つきましては、1月29日（水）20時から、今年度の企画の詳細をご説明するとともに、各団体の取り組みを紹介していただき、キックオフミーティングをオンラインで行う予定です。大変お手数ですが、以下の Google フォームより、ミーティングの参加予定と、今年の取り組みについて、お知らせくださいませ。

<https://forms.gle/ZBE7zUZ4d2oHPvVUA>

みなさんと一緒に今年も世界自閉症啓発デーを盛り上げていければと思います。どうぞよろしくお願い致します。

東京都自閉症協会 井上&吉田

東京都自閉症協会様より、加盟団体に啓発デー・イベントへのご協力の依頼がありました。

奈良県障害福祉関連等情報

○（12/25）知事記者会見

HTML <https://www.pref.nara.jp/63365.htm>

テキスト <https://www.pref.nara.jp/68083.htm>

映像 <https://www.pref.nara.jp/63189.htm>

○「奈良県障害者軽スポーツ大会」を開催します！

障害のある方の社会参加の促進と体力向上を図るとともに、介助者、家族、友人などの参加者同士の交流を深め、軽スポーツの普及を目指します。詳細は下記をご覧ください。

HTML <https://www.pref.nara.jp/item/317447.htm#itemid317447>

○令和6年度長期療養児童在宅医療・在宅訪問推進研修会シニアコースの参加者募集について

地域医療連携課において参加者を募集しています。詳細は下記をご覧ください。

HTML <https://www.pref.nara.jp/item/317423.htm#itemid317423>

○「奈良県障害者計画（素案）」に関する意見の募集について

令和2年度から令和6年度までを期間とする現行の「奈良県障害者計画」を改定します。つきましては、県民の皆様からのご意見を募集します。詳細は下記をご覧ください。

HTML <https://www.pref.nara.jp/item/317933.htm#itemid317933>



【令和6年度第74回障害者自立更生等厚生労働大臣表彰】
日本自閉症協会からの推薦を受けて、厚労省より令和6年度障害者自立更生等厚生労働大臣表彰者（厚生援護功労者）が発表され、当協会の市川宏伸会長と今井忠副会長が、長年の活動に対し同表彰を受した。
（日本自閉症協会メールより）

アンケートのお願い

日弁連より、障害年金に関するアンケート調査の実施依頼がありました。重ねて当協会の辻川副会長からも、アンケートの趣旨についてのご説明と協力依頼がありました。下記辻川副会長のメールより***、趣旨は、障害年金に関して、代理申請や不服審査に関する弁護士費用の援助制度が現在存在しておらず、弁護士費用の援助制度（法テラス委託援助制度等）があれば、弁護士に相談や依頼を希望されるかのアンケートを障害当事者や支援者、関係者にお聞きするものです。そのような制度を作るための立法事実（根拠データ）となりますので、一人でも多くの方の回答をお集めいただきますようご協力をお願い申し上げます。昨年、障害年金の改革に向けた院内集会（シンポジウム）の動画配信について情報提供させていただいておりましたが、このアンケートは、働けないのに障害年金を受給できない人が多数いる現状を変えていきたいという流れと、動きを一にするものです。***

※アンケート期日、2月14日（金）

※アンケート回答先（フォームのみ）

<https://form.qooker.jp/Q/auto/ja/syogainenkina/1224/>

担当課：日本弁護士連合会 人権部 人権第二課

電話：03（3580）9841

FAX：03（3580）2896

皆様、ご協力の程宜しくお願い致します。



2024年度ならやまオープンセミナー

2025年3月22日(土) 13:00~15:00

発達障害のあの子の 育ちと教育の役目

学校関係者に知っておいてほしい、
発達障害児の思春期について

お名前 氏名

講師：岡田 俊 先生（奈良県立医科大学 精神医学講座 教授）

児童精神科医、医学博士。自閉スペクトラム症、注意欠如多動症などの発達障害および併存症に対する研究を行う。臨床においては子どもの成長やそれぞれの特性に合わせた診療を行っている。

場所：奈良教育大学 大講義室（講義4号棟1階）

対象：教員、発達障害児者の支援にかかわる専門職、保護者、本学学生

参加費：1,000円（事前申込、当日支払い※現金のみ）

申込〆切：2025年3月10日(月)



お申し込みはこちらから▶

※会場付近により、定員に達しましたら募集を締め切らせていただく場合がございます。ご了承ください。
※本講演のための駐車場はご用意しておりません。公共交通機関をご利用ください。

奈良教育大学
特別支援教育研究センター

TEL：0742-27-9314（火・水・木/11:00-16:00）

E-mail：tokubetsu@nara-edu.ac.jp

ホームページQRコード▶



なんとカンファレンスが5年ぶりに復活、三重県と合同開催されます。

明けまして宜しくお祝い致します。早いものでカンファレンスまで残り1か月になってきました。内容を検討しているときもワクワクが止まりません。今回、いつも刺激を頂いているなんとカンファレンスさんと夢のコラボ企画です。高松さん・おがっちのトークショーはオールナイトニッポン風で進行していく予定です。オンライン対談+参加者参加型という未知のチャレンジですが、その分どのようなものになるか予想がつかせません♪

ぜひご予定頂ければと思います！！

【日時】

2月8日（土）10：00～17：00

【場所】

①オンライン同時開催（Zoom）

②東海会場：三重県立くわな特別支援学校（三重県桑名市東方尾弓田1073）

※駐車場有

③奈良会場：奈良学園大学（奈良県奈良市中登美ヶ丘3丁目15-1）

※駐車場なし（障害等により必要な場合は申込フォームにてお知らせください）

【会費】

①オンライン参加者 1,000円

②③現地参加者 0円（会場の関係で事前申し込みをお願いします）

※ワークショップによっては資料や材料費がかかります。

【申し込みページ】

<https://nantokaiconfe2025.peatix.com>

【講演内容】

①高松氏

「原点回帰！『学びとは？！』改めて問いかけます。」
～読み書き計算出来ひと、自立できひんの？～

②小川氏

「12年経って変わった事、変わらない事。」

③高松氏&小川氏のトークショー

「オールナントウカイニッポン」

講師や参加者とのオンライン対談を企画しています
参加者からのテーマも大募集中！（申込フォームやメッセージ等でお知らせください）

教育や支援の現場で普段から疑問に思っていること、

深く掘り下げて聞きたいこと、どんなことでも結構です
のでお気軽にメッセージを送ってください。

④石井氏

「広げよう！コミュニケーション支援のWA」

～みんなの笑顔や happy を求めて～

PECS®のやり方を参考に支援学校三校で行ったコミュニケーションの実践を発表します。

⑤屋台（奈良会場のみ）

内容は現地でのお楽しみ！

⑥ワークショップ（三重会場のみ）

スイッチ教材製作会※材料費は現地にて。数に限りがあります

- ・棒スイッチ製作
- ・BDアダプター製作
- ・おにぎりスイッチ製作 他

【懇親会】※三重会場のみ

2月7日（金）17：30～ 「たけの古屋」（三重県桑名市有楽町32）

JR桑名駅・近鉄桑名駅より徒歩4分

会費5,000円程度（人数により変動有）

詳細は、チラシ・申し込みページをご覧ください。



なんとカンファレンス
(会場：奈良学園大学)

東海特別支援教育カンファレンス
(会場：三重県立くわな特別支援学校)

テーマ

「原点回帰」

■ 10時～

オープニング

両実行委員長トークバトル

■ 11時05分～



小川 修史 氏

おがわ ひさし

兵庫教育大学教授

奈良会場にて

奈良学園大学
キャンパス見学ツアー

■ 13時10分～

おがっち&高松 氏

対談「オールナントウカイニッポン」

■ 14時40分～

なんと **屋台タイム** 奈良会場のみ

カ

なんとカンファレンス

※ワークショップ

おめめどう、NUD他(予定)

■ 14時40分～



石井 幸仁 氏

いしい ゆきひと & 三重PECS

三重PECS代表

メンバー

三重会場にて
スイッチ教材製作会
書籍展示等(予定)

なんと うかい カンファレンス

2025 2/8

10:00～16:40

オンライン

& 現地同時開催

第12回東海特別支援教育カンファレンスと、なんとカンファレンスの共同開催です。奈良会場と東海会場をオンラインでつなぎ、様々な方たちと特別支援教育について改めて考え、自分が大切にしていること・軸について見つめていきたいと思えます。



東海カンファ&なんとカンファ

なんと
カ

なんとカンファレンス

主催：東海特別支援教育カンファレンス実行委員会 共同開催：なんとカンファレンス実行委員会

参加費 現地参加無料 / オンライン参加(Zoom)1000円

お申し込みはこちら



Peatix



2025年2月27日(木) 日本障害者協議会(JD) CRPD プロジェクト

第3弾

障害者権利条約実現への道

—総括所見が指摘する「教育」をめぐる課題—

日 時 2025年2月27日(木) 17時00分～19時00分
開催方法 オンライン (Zoom)
対 象 JD 加盟団体のみなさん (事前のお申込みをお願いいたします)
定 員 先着 100名
参加費 無 料

企画趣旨

2022年9月に発表された国連の障害者権利委員会による総括所見をめぐる、JDでは学習会等を重ねてきましたが、今年度は3回にわたって障害者権利条約、総括所見をめぐる、会員のみなさんとの意見交流会にとりくみ、第27条労働及び雇用をめぐる(10月29日)、精神医療・保健福祉について(12月17日)を実施しました。第3回として第24条教育をめぐる課題について開催します。

総括所見は、インクルーシブ教育を受ける権利を法規定し、目標・期限・予算を伴うインクルーシブ教育の国家計画を強く勧告しました。しかしながら、国・文科省は「インクルーシブ教育システム」を標榜し、現状を放置したままです。一方、特別な学校・学級で学ぶ子どもは激増し、小中学校で学ぶ子の8.8%には支援が必要と報告されています。こうしたなかで、いくつかの自治体では「インクルーシブ教育」をめざす試行もはじまっています。

JDはJDFとともに、「全ての障害のある児童生徒が、原則として自分の住む地域の通常学級で学ぶことを可能にする立法上、政策上の措置」をはかるとともに、本人の希望があれば特別支援学校で学べることを求め、条約24条にある「教育の目的」の実現をめざしています。現状や問題点、課題を交流し、国際的な視野も含めて闊達な意見交換ができればと思います。

<報告と意見交換>

全国障害者問題研究会	児嶋芳郎さん
障害者の生活保障を要求する連絡会議	尾上裕亮さん
NPO 法人全国 LD 親の会	井上育世さん
一般社団法人日本自閉症協会	尾崎ミオさん

○申し込み締め切りは、2月20日(木) 正午まで

- ・フォーム URL <https://forms.gle/jcjbS9xNtxiTWjWA>
- ・FAX またはメールの場合は、裏面の必要事項にご記入いただき、お申込みください。

主催：認定NPO 法人日本障害者協議会 (JD)

お問い合わせはメールにてお願いします。 office@jdnet.gr.jp

JD2024年度 第3回障害者権利条約実現への道 -第24条 教育-
意見交流会 (2025年2月27日開催) お申込み

FAX 返信先 **03-5287-2347** (JD事務局)

お申込み用紙にご記入の上、FAXまたはEメールにてお送りください。

※ウェブ受付をしています。QRコードもご利用ください。

<https://forms.gle/jcjzbS9xNtxiTWjWA>



QRコード

■参加費 無 料

----- お申込み用紙 -----

申込み日 月 日

お名前 (ふりがな)

所属団体 (JD加盟の団体)

メールアドレス

住所〒

携帯電話番号

■必要な方は○で囲んでください。

文字通訳 ・ テキストデータ

お申込み・お問合せ

認定NPO 法人 日本障害者協議会 (JD)

〒162-0052 東京都新宿区戸山1-22-1 Eメール office@jdnet.gr.jp

TEL03-5287-2346 FAX03-5287-2347

発行人：関西障害者定期刊行物協会

住 所：〒543-0015

大阪市天王寺区真田山町2-2 東興ビル4F

編集人：奈良県自閉症協会

定 価：100円